

【資料 1】

会議録

会議の名称	令和５年度 第２回あま市スポーツ推進連絡会議
開催日時	令和６年３月２１日（木）午後７時から
開催場所	あま市役所 ２階 Ｅ会議室
内 容	１ 開会 ２ 委嘱状交付 ３ 会長あいさつ ４ 令和５年度 第１回あま市スポーツ推進連絡会議録について ５ 議題 （１）第１回会議での意見と検討状況について （２）令和５年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について （３）意見交換 【テーマ】 ① 「インクルーシブスポーツ」の推進について ② 「みる」「ささえる」スポーツの推進について ６ その他
資 料	・ 次第 ・ 座席表 ・ 【資料１】 令和５年度 第１回あま市スポーツ推進連絡会議録について ・ 【資料２】 第１回会議での意見と検討状況について ・ 【資料３】 令和５年度 スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について ・ 【資料４】 「インクルーシブスポーツ」の推進について ・ 【資料５】 「みる」「ささえる」スポーツの推進について
出席委員	石塚吾歩路会長、石塚建伸副会長 木全克己委員、横井三千代委員、石黒 孝委員、竹田竜一郎委員、 立松武子委員、石原晶子委員、中村博美委員（委員名簿順）
欠席委員	川寄寛繼委員
事務局	（教育委員会） 伊藤克仁教育長、鎌倉崇志教育部長 （教育部スポーツ課） 大堀俊和課長、江上博孝主幹、田口健次郎主幹、水野晃寛課長補佐、 菅原孝徳課長補佐

会議の経過

1 開会

2 委嘱状交付

中村正生委員の辞任により、後任の川寄寛繼を委員に任命。川寄委員は、会議欠席のため、紹介のみ。

【質疑応答】

なし

3 石塚吾歩路会長あいさつ

4 令和5年度 第1回あま市スポーツ推進連絡会議録について事務局から説明

【質疑応答】

なし

5 議題

(1) 【資料2】第1回会議での意見と検討状況について事務局から説明

【質疑応答】

委 員：小学校において下校後、児童が校庭や体育館を利用するのは、どの程度可能なのか。

事務局：下校後、児童が校庭や体育館を利用できるのは、利用する団体が使用を開始する前まで児童の利用は可能です。また、体育館につきましては利用することはできません。

委 員：校庭でボール遊びはできますか。

事務局：ボール遊びはできます。

委 員：スポーツ推進計画、アンケート調査はいつ実施されたものなのか。

事務局：計画策定が令和3年度から始まっており、4年度に調査したものです。

委 員：下校後、学校には実際に児童は遊びに来てますか。

委 員：児童は遊びに来ています。

塾などに通っている児童もいますが、時間を上手に使って遊びに来ています。ただ、利用できる時間が短いです。特に冬場は暗くなるのが早いので。

委 員：利用できる時間が短いということは、ゲートボール場についても同じことではないか。

事務局：基本的には、身近に子どもが気軽に遊べる場所があるかないかということです。現在あま市内にはゲートボール場が4か所あります。

学校だけでは難しいので、利用頻度の低いゲートボール場を補完的にうまく開放し、子どもたちの遊び場の施設として利用できるよう考えていきたいと思います。

委 員：七宝及び甚目寺総合体育館において、平日の午後1時から午後5時まで、

利用が無い日は何日あるのか。

事務局：週1日ぐらいです。建屋（屋内施設）になると、どうしても何らかのトラブルが発生し、そのトラブル対応がせまられることが心配されます。

- (2) 【資料3】令和5年度 スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について事務局から説明。

【質疑応答】

委員：このような取組をしているとは知らなかった。このような取組をしていることを、もっと周知したほうがいいのではないかな。全てにおいて、広報活動が大切と思うがいかがかな？

事務局：教室や講座については、あま市広報やSNS等で参加募集をしているところです。また、新しい教室や講座につきましては、企画検討をして、開催していきたいと考えております。また、この関係課の取組項目については今年度から本格的に進めている状況です。取組結果につきましては、令和6年2月16日現在において、関係課に確認をとったものです。取組結果は、完成したものを令和6年度の第1回会議においてお示しさせていただきたいと考えております。今後、あま市のホームページでも公表していきたいと考えており、その前に委員の皆様のご意見をいただき、あま市のホームページに公表していきたいと考えております。

- (3) 意見交換

【資料4】①「インクルーシブスポーツ」の推進について事務局から説明

【質疑応答】

委員：インクルーシブスポーツの教室を開催するにあたり、障がい者の参加ということで意図的にくくりをしないといけないうのか。

事務局：競技性を高めるならば、障がい者スポーツとか健常者が行うスポーツになってくる。例えば車いすテニスだと障がい者スポーツになるが、普通のテニスであれば健常者が行う。それで、ショートテニス（コートを小さくし、スポンジボールを使用する）のようにだれもが参加できるようなものをインクルーシブスポーツとしております。

委員：障がい者と健常者が交流を図るにはどのような仕組みがあるか考える必要があると思う。また、インクルーシブスポーツを推し進めるにあたり、教育とその啓発も必要であると思われる。あわせて、支援者も必要となってくる。

委員：教育に関しては、小学校においては、児童に車いす体験をさせている。

委員：障がい者スポーツは障がい者だけのスポーツであるとの偏見や誤解があっているといけないということを、伝えていく必要がある。また、今年はオリンピックイヤーであるので、そこでうまく情報発信等をしていけばよいのではないかなと思う。

委員：合併する前にボーイスカウトや子供会が一緒になって障がい者運動会を開き、車いすレースなどで交流を図っていた。現在、障がい者の方と触れ合う機会が少ないので、交流の場を設けることが必要である。交流の場を、モルックに限らず、パン食い競争や車いす競争などのスポーツに限る必要はなく、まず、交流の場を設け、そこで交流を深めることが大切である。マルシェ等の場でスペースを借りて障がい者の方にモルック等を紹介する方法もある。

委員：三重県伊勢市が皇学館大学と共同してインクルーシブスポーツとして、輪投げ、風船ビーチボール、縄跳び等を開催した。このように、身近でできるようなものから始めてみてもいいのではないかと思う。

委員：伊勢市では、市をあげてインクルーシブ取り組んでいる。市民にどのように知らせるかが大切である。あま市としてインクルーシブスポーツとはどのようなものなのかを周知するにあたり、先進自治体の苦労話やどのような広報活動を行ったのかを聞く必要があると思われる。

委員：インクルーシブとは差別をなくすことである。こういう大会を開催するので、老若男女どなたでも構わないので参加してもらうことが必要である。あま市が愛知県の先進となってインクルーシブスポーツを推進していく覚悟が必要であると思われる。モルックという競技は障がいがある方でも小さい子供でも点数が取れる素晴らしい競技だと思うので色々な団体に周知する必要がある。そのような子どもたちをいかにして、自主的にスポーツに興味を持たせることが必要。

事務局：具体的に取り組みを一つ進めるとなると、施設の整備や支援をしていただく人も必要となってきます。教室を開くとなるとそういったノウハウも必要となってきます。推進計画ができるまでは、健常者向けの教室や大会がほとんどで、障がい者の方が参加できる環境が整っていませんでした。そういったところを少しずつ整えていきたい。ただ、市行政の力だけでは足りない部分があるので、そういった部分を関係団体の皆様にご協力をいただいて、市として少しずつ進めていきたいと考えております。そのきっかけがモルックで、障がいをお持ちの方にも参加をしていただき、体験会などの開催を通してノウハウを蓄積し、さらに関係団体との連携体制を高めていきたいと考えております。

【資料４】②「みる」「ささえる」スポーツの推進について事務局から説明
【質疑応答】

委員：２年前にフェンシングの加納選手、アーチェリーの武藤選手、パラリンピックカヌーの加治選手に声をかけ、武藤選手と加治選手に来ていただき「あまフェス」を開催した。このイベントにおいて、アーチェリーの体験会などを行った。その後、色々な意見等をいただ

いたが、「やっぱりスポーツはいいね」という意見が一番多かった。オリンピックのメダリストを招いて体験会などのイベントを開催することは大切である。

他のイベントとスポーツを絡ませてやっていくことも「ささえる」スポーツの推進であると思う。

委員：「みる」スポーツにおいて、オリンピックメダリストを身近でみることは、とても意義があると思う。テレビで見るのと、実際、身近で見るのとでは全然違うし感動もする。また、そういったイベントを開催するにあたっては裏方（ボランティア）の人の力が必要である。ボランティア活動をやってみたいという人はかなりいると思うので、ボランティア募集の情報を周知することも必要であると思う。

委員：あま市内にプロスポーツの選手は、何人くらいいますか。

事務局：明確な人数は把握しておりません。

委員：加納選手など有名な選手は把握しているわけですね。

事務局：把握しております。

委員：把握している以外に、プロの選手はいると思います。探していないのか、見つけていないのかわからないが、「みる」ということであれば、有名な選手以外のプロスポーツの方を見つけ、イベントに招待し、市民に身近に感じてもらうこともできる。

事務局：「ささえる」という活動であれば、例えば市にゆかりのあるオリンピックとかパラリンピックやプロスポーツ選手などを応援していくということになります。まず愛知県が、2026年アジア・アジアパラ競技大会に向け、大会ボランティアの募集し研修を行い、大会を支えていく準備をしている。市としては、今すぐにではないですが、ささえていただく活動については、この会議にお集まりの皆様方や、また関係団体、個人ボランティアの方を発掘して行ければと思います。「みる」機会という活動であれば、市内にゆかりが無くても著名な選手や活動されている選手にコンタクトを取って、ご縁があれば本市へ招待し、イベント等を開催したいと思います。

委員：プロバスケットボールリーグの無料招待は、とても良いことだと思う。今後、バスケットボールだけでなく、他のスポーツ観戦無料招待も行っていきたい。そうすることで、スポーツに興味を持つきっかけづくりになると思う。

委員：「ささえる」ということで、美和高校が色々なボランティア活動に参加している。あるオーケストラコンサートに美和高校のブラスバンド部5名が、オーケストラコンサートにボランティアとして参加した。プロの演奏が見たい、また本人たちの励みにもなる。生徒たちはとても純粋な心であるので、そういった人材の活用方法もあると思う。も

っと、分野を広げることが必要である。「スポーツデイ」などを開催して、「ささえる」人を呼んでみることもいいかと思う。

会 長：「インクルーシブスポーツ」、「みる」「ささえる」スポーツの推進についてまとめさせていただきます。

今回たくさんの貴重な皆様方のご意見をご頂戴いただきましたので、前回と同様に一度事務局において整理をしていただき、事務局と私とで提言等の内容につきまして今後の方向性等をまとめ、また、皆さんにお示しをさせていただきたいと思いますが、委員の皆様それでよろしいでしょうか。（全員賛成）皆様に賛成をいただきましたので次回の会議において整理させていただきましたものを報告させていただきます。

7 その他

次回の令和6年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議は、7月頃の開催を予定。日程が決まり次第、案内通知を送付します。

8 閉会